

令和 5 年度
川崎市障害児・者行動援護従業者養成研修 募集要項

1. 実施者 名称

川崎市障害児・者行動援護従業者養成研修
(神奈川県指定 B 第 0014 号)

2. 日 時 全日程 4 日間

講義 2 日間 令和 5 年 10 月 7 日(土) 10 月 14 日(土)

演習 2 日間 令和 5 年 10 月 21 日(土) 10 月 28 日(土)

3. 会 場

総合研修センター 研修室

(川崎市川崎区日進町 5-1 川崎市複合福祉センターふくふく 2 階)

※会場までの行き方は、P 12「会場のご案内」をご覧ください。

4. 目 的

行動障害があり地域で安全で豊かに暮らす為に、支援を必要としている方は年々増えています。しかし、川崎市では支援に当たれる従業者が不足しており、支援を行える事業所も少ない現状です。支援者に行動援護従業者養成研修講座の修了要件が義務づけられています。

行動援護事業の実施事業所内外において、障害について正しい知識を持ち、適切な支援ができる従業者を育てる研修の機会を求める声も高まっています。

こうした現状を踏まえて、研修要綱に沿って、具体的で、実践的な研修を実施し、支援を待っている人たちに対応できる従業者を育てることにより、障害者の地域生活の充実に寄与することを目的とします。

5. 定 員

40 名予定(定員上回る募集があった場合は、選考により受講者を決定いたします。)

6. 受講対象者

次の（１）から（３）までの要件をすべて満たす者

- （１） 申込み時点で、川崎市内の行動援護事業所に所属している（もしくはする予定の）者で、行動援護サービスに従事する予定のある者
- （２） **４日間**すべての日程を受講できる者
- （３） 所属している事業所の推薦を受けた者

【推薦がない方の申込について】※行動援護サービスに従事する予定のある者

本研修申込時点で事業所に所属していない方もしくは事業所の推薦がない申込者は、定員に余裕があった場合にのみ川崎市の選考を経て受講可否を郵送にて連絡します。申込期間内に下記を整えてください。（推薦書は、事務担当者欄のみご記入の上郵送してください。）

7. 受講者の推薦・申込み

次の（１）から（２）までをすべて整えてください。

（１）受講申込フォーム

- ・事業所の取りまとめ担当者が入力してください。
- ・インターネット上の受講申込フォームからの申込みとなります。
- ・申込多数になることが予想されるため、１事業所４名までの申込とさせていただきます。
- ・受講希望者１人につき１送信です。

下記URLより、必要事項をご入力の上お申込みください。

申込フォーム：<https://forms.gle/uuHNcqdikTAdAuKn6>

（２）受講推薦書について

- ・別紙P. 12「川崎市障害児・者行動援護従業者養成研修受講推薦書」に必要事項を記載、**押印の上**、郵送してください。（締切日、消印有効）

※事業所内優先順位が未記載や不適切な記載の場合（事業所内優先順位１位が複数いる等）については、受講を見送りとさせていただきます。

※申込締め切り後は一切受け付けませんので、ご注意ください。

※総合研修センターホームページ及び、ウェブサイト「障害福祉情報サービスかながわ（URL <http://www.rakuraku.or.jp/shienhi/>）」の「書式ライブラリ」→「3. 川崎市からのお知らせ」→「1. 川崎市からのお知らせ」に掲載します。

(3) 募集開始 令和5年8月2日(水)～8月23日(水) 17時まで

※申込終了後、定員に満たない場合は推薦がない方も申込を受け付け、川崎市の選考を経て受講可否を郵送にて連絡します。

(4) 推薦書送付先 〒210-0024

川崎市川崎区日進町5-1 複合福祉センターふくふく2階 総合研修センター

「川崎市行動援護研修」担当 行

8. 受講者の決定

(1) 川崎市内の事業所からの推薦者限定です。

(2) 定員を上回った場合には、選考により受講者を決定します。(先着順ではありません。)

(3) 受講決定については、事業所の取りまとめ担当者宛て申込締め切り後2週間を目安に通知を送付いたします。

9. 研修のカリキュラム及び日程表(別紙参照)

10. 受講料

受講料は20,000円です。(テキスト、講義資料、演習教材などを含む)

お支払いについては受講決定後ご案内いたします。

※会場までの交通費その他についても、受講者負担とします。

※お支払いいただいた受講料は、いかなる理由があっても返金されません。

11. 使用テキスト

行動援護従業者養成研修テキスト基礎編援助技術編改訂版

(特定非営利活動法人全国地域生活ネットワーク)

サブテキストとして、一部の講師は自作のテキストを併用

12. 研修修了の認定方法

(1) 公的機関発行の証明書等により受講者の本人確認を行い、全カリキュラム(4日間)を受講した者に対して修了証書を交付致します。なお、本人確認方法については研修初日に下記の掲示によって行います。

- ・運転免許証
- ・健康保険証

- ・住民票の写し
- ・住民基本台帳カード
- ・パスポート
- ・年金手帳
- ・在留カード
- ・生活保護受給証明書
- ・国家資格等を有する者については、免許証又は登録証等

(2) 特別な事情で一部の科目を受講できなかった場合は、神奈川県内で同一のカリキュラムで実施される研修の一科目を履修した後に修了を認めます。ただし補講受講可能期間は4ヶ月以内です。

1 3. 個人情報の取り扱いについて

- (1) 研修を通して知り得た個人情報は、当該研修業務の運営以外に使用されることはありません。
- (2) 本研修の修了者は、川崎市障害児・者行動援護従業者養成研修の修了者名簿（修了証書番号、氏名、生年月日、所属等）として神奈川県に報告します。

1 4. 新型コロナウイルス感染症拡大防止策について

本研修は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針に鑑み、以下のとおりに実施いたしますのでご協力をお願いします。

- (1) 研修の2週間前より研修の2週間前より体調管理をしていただき、健康チェックシートを毎受付にて確認し最終日にご提出いただきます。
- (2) 受付にて検温を実施します。体温が著しく高い方や、体調不良の方は受講をお断りすることがございますので、あらかじめご了承ください。
- (3) 研修当日は、マスクの着用、受付時の手指消毒の徹底、対人距離の確保等の感染症拡大防止対策にご協力ください。
- (4) 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、研修開催途中であっても、延期・中止する場合がございます。
- (5) (4)により開催延期となった場合は、代替日程を調整のうえ、改めて全受講者へご連絡いたします。ただし、代替日程確保が困難と判断した場合は、中止といたします。

1 5. その他

- (1) 遅刻及び早退は欠席とみなします。修了証書を交付できませんので、ご注意ください。通勤時間帯による混雑や天候等を考慮の上、余裕を持ってご来場ください。

※遅刻は原則、遅れた時間の長さを問わず欠席としますので時間を厳守ください。

- (2) 著しく受講態度が悪く（私語、居眠り、携帯電話の使用等）、繰り返し注意された方には修了証書を交付できませんので、ご注意ください。
- (3) 本研修では研修の受講する上で支援が必要な方に対し、研修の実施及び、他の受講生の学習に支障をきたさない範囲で合理的配慮を取らせていただきます。受講にあたって手話通訳、点訳教材等を必要とする方や人員や専門性を要する直接の支援を必要とする方は、必ず受講申込フォームの「研修を受講する際に必要な配慮」に必要事項をご記入ください。なお、ご相談やご不明な点等ございましたら別途総合研修センター事務局までご連絡ください。
- 申込みの際の記入や事前の相談がない場合は対応できないことがございますのでご注意ください。
- (4) 来場の際は、公共交通機関をご利用ください。
- (5) 川崎市障害児・者行動援護従業者養成研修の開講日に、自然災害（大雪等）及び事故等が発生した場合、開講しないまたは開始時刻を遅らせることがあります。その場合には、開講当日の午前8時30分までに、障害福祉情報サービスかながわ及び社会福祉法人川崎市社会福祉協議会総合研修センターのホームページにその旨を掲載いたしますので、ご確認ください。

URL

障害福祉情報サービスかながわ <http://www.rakuraku.or.jp/shienhi/>
総合研修センター <http://www.kourei-c.jp/>

16. 研修に関する問合せ先（本研修の申込手続き・実施等に関する問合せ先）

■社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 総合研修センター

住 所：〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 川崎市複合福祉センターふくふく2階
電 話：044-223-6509 FAX：044-223-6598
担当：鈴木 荒山

E-mail:kensyu-c@csw-kawasaki.or.jp

（本研修に関する問合せ先）

■川崎市健康福祉局 総合リハビリテーション推進センター 企画・連携推進課

住 所：〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 川崎市複合福祉センターふくふく2階
電 話：044-200-3197 FAX：044-200-3974
担当：後藤 一ノ関

E-mail:40rikikak@city.kawasaki.jp

講 師 一 覧

担 当 科 目	氏 名	現 職	専任・兼任
行動援護の基本Ⅰ・Ⅱ 行動理解の基礎 家族の思い	木村 重之	社会福祉法人横浜やまびこの里 ポルト能見台	兼任
行動援護を理解する チーム支援 まとめ・チェックリスト の再記入と解説	鈴木 謙之	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
福祉と医療の連携	野崎 秀次	社会福祉法人同愛会 法人本部医療顧問	専任
行動援護の技術Ⅰ・Ⅱ	佐野 良	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
事例分析	神田 宏	社会福祉法人横浜やまびこの里 横浜市発達障害者支援センター	兼任
行動援護を理解する	網代 怜音	川崎市健康福祉局障害保健福祉部 障害福祉課	兼任
障害特性の理解 氷山モデルの活用 生活の組み立て「外出場 面」	二宮 瑠美	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任

* 詳細は、別添「講師履歴」参照

演 習 助 手 一 覧

担 当 科 目	氏 名	現 職 (在職年数)	専任・兼任
行動援護の技術Ⅰ・Ⅱ 事例分析 まとめ・チェックリス トの再記入と解説	佐野 良	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
	鈴木 謙之	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
	木村 重之	社会福祉法人横浜やまびこの里 ポルト能見台	兼任
	井元 圭子	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 くさぶえの家	兼任
	北川 恵	社会福祉法人なごみ福祉会 相談支援センタードリーム	兼任
	内川 銀也	社会福祉法人三篠会 川崎ラシクル	兼任
	飯田 純一	社会福祉法人セイワ 川崎授産学園つばき寮	兼任
	長田 貴志	社会福祉法人育桜福祉会 桜の風	兼任
	赤津 公啓	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
	二宮 瑠美	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
	木村 仙理	社会福祉法人セイワ 川崎授産学園つばき寮	兼任
	松本 香菜子	社会福祉法人育桜福祉会 しらかし園	兼任

川崎市障害児・者行動援護従業者養成研修 研修カリキュラム

講義 2日間 令和5年10月 7日(土) 10月14日(土)

講義 1日目 9:15~17:00

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		9:00	9:15		
開会		9:15	9:25	10	川崎市より挨拶 研修オリエンテーション
プログラム1	講義1	9:25	10:55	90	「行動援護を理解する」制度の成り立ちと支援の実際
プログラム2	講義2	11:05	13:05	120	「行動援護の基本Ⅰ・Ⅱ」
昼休憩		上記講義途中		60	
プログラム3	講義3	14:05	16:05	120	「行動理解の基礎」
プログラム4	講義4	16:15	17:00	45	「障害特性の理解」

講義 2日目 9:15~16:05

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		9:00	9:15		
プログラム5	講義5	9:15	10:45	90	「福祉と医療の連携」
プログラム6	講義6	10:55	11:55	60	「冰山モデルの活用」
昼休憩		11:55	12:55	60	
プログラム7	講義7	12:55	13:25	30	「生活の組み立て」外出場面
プログラム8	講義8	13:25	13:55	30	「家族の想い」
プログラム9	講義9	14:05	16:05	120	「チーム支援」

演習 2日間 令和5年10月21日(土) 10月28日(土)

演習 3日目 9:00~17:00

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		8:45	9:00		
プログラム10	演習1	9:00	12:00	180	「行動援護の技術Ⅰ」アセスメントの実際
昼休憩		12:00	13:00	60	
プログラム11	演習2	13:00	17:00	240	「行動援護の技術Ⅱ」サービスの改善を考える

演習 4日目 9:00~17:55

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		8:45	9:00		
プログラム12	演習3	9:00	12:00	180	「事例分析」
昼休憩		12:00	13:00	60	
プログラム13	演習4	13:00	16:30	210	「事例分析」
プログラム14	演習5	16:40	17:40	60	「まとめ・チェックリストの再記入と解説」
閉会		17:40	17:55	15	挨拶 修了証交付

※状況により変更する可能性があります。

「行動援護の技術ⅠⅡ」 演習計画						
<p>方法：DVD[行動援護従業者養成研修用DVD 行動援護の技術(アセスメント演習)](特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク作成)を使用し、演習を実施する。</p> <p>ケース概要(S・T)：年齢 19歳 知的障害重度(A判定) 自閉症 行動援護利用者 ADL：一部介助が必要。身だしなみや排便後のふき取りは支援利用サービス：ケアホーム、生活介護、行動援護。コミュニケーション：発語はあるが、オウム返し等が多く、意思表示や理解は、言語だけでは難しい。</p> <p>行動面：不安定になると床や服のごみや毛玉が気に入り、拾って見えないところに捨てる。</p>						
<p>S・Tの実際の外出場面の映像を視聴しながら、本人の状態像をアセスメントしてシートに記入し、それをグループワークで共有することで、客観的な見立ての重要性を学ぶ。</p> <p>グループで共有したアセスメント結果に基づき、外出計画をたてて発表する。</p> <p>この演習を通して、自閉症の障害特性理解に基づいたアセスメントの重要性と、支援計画の立て方、支援しながらの再アセスメント(モニタリング)の必要性を学ぶ。</p> <p>1グループあたり受講生7～8名で行う。各グループに1名ずつインストラクターを配置。</p>						
	240					
科目	分	内 容	分担	使用シート類	配 慮 点 など	事務局
「行動援護の技術Ⅰ」 ～アセスメントの実際～	10	ガイダンス	講師	特性解説シート	①本日の流れ ②インストラクターの紹介	受付
	55	事前講義	↓			
	10	アセス演習1の解説	講師		①演習内容の説明 ②アセスポイント確認 ③シート確認 ④事前情報提供 ⑤S・Tさん情報提供	
	10	DVD視聴	↓	アセスメント	Step1を通して視聴	DVD操作
	10	アセスシート1書き込み	インスト	シート1	会場を巡回し質問に答える	
	10	アセス1解説	講師		解答例の解説	書類配布
	10	アセス演習2の解説	↓		①演習内容とシートの説明 ②アセスポイント確認 ③DVD→書き込み→解説×5回流れの確認	DVD操作
	16	アセス2 予定を理解する①	↓		予定を理解する①DVD1分→書き込み5分→解説10分	
	15	アセス2 移動する②	↓	アセスメント	移動する②DVD1. 5分→書き込み5分→解説8分	解説書類は、最後に配布→これが午後の計画シートになる
	12	アセス2 購入する③	↓	シート2	購入する③DVD2分→書き込み4分→解説6分	
	12	アセス2 食べる④	↓		食べる④DVD1. 5分→書き込み4分→解説6分	
	8	アセス2 片づける⑤→帰る⑥	↓		片づける⑤帰る⑥→DVD1. 5分→書き込み3分→解説3分	
	2	アセスメントの共有	↓		アセスメント結果を共有する	
昼休み	60	昼休憩			※休憩中にグループ形式に変更する(休憩まえに受講生に協力依頼する)	グループ計画シート・質問用紙配布
「行動援護の技術Ⅱ」 ～サービスの改善を考える～	5	ガイダンス	講師			
	25	事前講義	↓			
	5	演習の解説	↓		①演習内容の説明 ②シート確認 ③困難さと強みの確認	
	10	DVD視聴	↓	外出支援計画	Step1を通して視聴	DVD操作
	25	シートへの記入(個人演習)	インスト	シート	①困難さの記入 ②強みの記入(余裕があれば③支援の計画)	
	35	グループでの共有(GW①)	インスト	質問用紙	①インストの役割紹介 ②自己紹介と役割分担 ③内容の共有 ④質問事項のとりまとめ	
	15	質問タイム	講師		S・Tさんに関するQ&A(追加情報から)	マイクを渡す
	60	支援計画を立てる(GW②)	インスト		①サービス改善プランを作る ②発表の準備(6場面60分 適宜休憩する)	
	20	計画の発表	講師		4G×5分(※講師が全Gから4Gを選択)	マイク・タイマー
	10	グループでのふりかえり(GW③)	インスト		インストラクターがグループワークの講評を行う	インストラクターがグループの計画を回収→事務局へ。
	2	S・Tさんの後日談	講師		その後の支援内容の説明	DVD操作
	13	DVD視聴	↓		Step2を通して視聴	
	15	まとめ	↓		①DVDのまとめ ②支援計画のまとめ ③今日全体のまとめ	終了後アンケート回収
※適宜、休憩をいれる。				(網掛け部分がグループワークの時間帯です)		
県研修課程のカリキュラムとの読み替えについて						
<p>この演習は、</p> <p>○「基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習 1時間」</p> <p>○「行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習 2時間」(※残りの1時間は「行動理解の基礎 1時間」で行う)</p> <p>○「強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義0.5時間」(※残りの1時間は「行動援護を理解する」で行う)</p> <p>○「行動障害の背景にある特性の理解に関する演習 1.5時間」</p> <p>○「強度行動障害がある者へのチーム支援に関する講義 2時間」(※残りの1時間は「チーム支援」で行う) に該当する。</p>						

「事例分析」及び「まとめ・チェックリストの再記入と解説」 演習計画						
ケース事例を使用する。ケースのプロフィールをもとに、ロールプレイを通して実際の外出場面において配慮しなければならない事項について知る。グループで立てた計画に沿ってロールプレイをすることで、アセスメントの妥当性、計画に無理がなかったか、計画通りに支援できていたか？(チームプレイの重要性)を振り返る。 この演習を通して、本人の障害特性を把握したうえで、周囲の環境の情報も含めてのアセスメントと、外出計画の重要性、社会に対する協力依頼や説明の必要性を学ぶ。						
ケース事例概要(ピカ夫くん)： 年齢 8歳 男性 知的障害重度(IQ30)の自閉症 精神年齢3～4歳 ことばの理解:わかる言葉であれば単語+2語文程度(自分でも話す) 好きなもの ピカチュウ、ジュース、電車、歌等。 視覚的情報に引っ張られやすい(見えなければ意外に大丈夫)。コミュニケーション:これまで数コマのスケジュールを使った経験はなし。言葉の理解に限界があり、買い物の際、予定外に手に持ってしまったものを買わないように説得しようと頑張りすぎると、ストレスになり、かえってパニックになる。						
A場面:事前準備と予防策をたてて、色鉛筆を買おう …すべてのグループで検討 B場面:軌道修正を図りながら、色鉛筆を買おう …デモンストレーション C場面:ピカチュウ人形を買うことなく、パニックへの移行を回避しよう D場面:暴れるピカ夫の安全に配慮しながら、周囲に謝罪・状況説明・協力依頼をしよう …C、Dのうちから、割り振られた1事例を検討。						
1グループあたり受講生7～8名で行う。各グループに1名ずつインストラクターを配置。ロールプレイの利用者役として、インストラクターを1名。全体の演習の進捗や内容の調整役のフリーインストラクターを1名配置。						
		210				
科目	分	内 容	進行	使用シート類	配 慮 点 など	事務局
ガイダンス	15	ガイダンス	講師	特性解説シート	演習の趣旨説明	アンケート配布(2種類)
事例分析～グループ演習～	45	事前講義	↓			
	30	演習説明	↓		①演習内容とシートの説明 ②B場面(軌道修正を図りながら色鉛筆を買おう)デモンストレーション	
	25	対応策検討表記入(個人)	講師	対応策検討表CD	①場面設定の確認 ②課題場面の割り振り ③対応策の記入	グループ用対応策検討表を配布
	30	対応策の発表(GW①)	INST	(個人用×人数)	①役割を分担する(2回分) ②対応策を読み上げる	
	35	対応策の検討(GW②)	↓	(グループ用)	①対応策をひとつに絞る ②グループ対応策検討表の完成(台詞シートの完成) ③議論の焦点もまとめる	
	60	昼休憩		小道具作成グッズ		小道具作成グッズをテーブルに配置する
事例分析～グループ演習・発表～	20	ロールプレイ発表準備(GW③)	INST		①実際に動いて発表内容を確認する ②台詞を暗記する	
	30	ロールプレイ発表	講師	チェックシートCD	①発表 対応策検討表の読み上げ3分+ロールプレイ3分×4G(※講師が全Gから4Gを選択) ②チェックシートでのフィードバック	チェックシート配布 C場面+D場面
	10	グループ内ふりかえり(GW④)	INST		インストラクターがグループの講評を行う	
	15	対応策検討表記入(個人)	↓	対応策検討表A	対応策の記入	
	20	対応策の発表(GW⑤)	↓	(個人用×人数)	対応策を読み上げる	
	30	対応策の検討(GW⑥)	↓	(グループ用)	①対応策をひとつに絞る ②グループ対応策検討表の完成 ③議論の焦点もまとめる	
	20	ロールプレイ発表準備(GW⑦)	↓		①事前準備の内容を具体的に記載する ②小道具(支援グッズ)を作る	
	25	ロールプレイ発表	講師	チェックシートA	①発表 対応策検討表の読み上げ3分+ロールプレイ3分×4G(※講師が全Gから4Gを選択) ②チェックシートでのフィードバック	チェックシート配布
	40	グループ内ふりかえり(GW⑧)	INST		インストラクターがグループの講評を行う。ロールプレイ終了後に、記録場面に応じたを記入し、グループにて振り返りを行う	
まとめ・チェックリストの再記入と解説	15	まとめの講義	講師		まとめの講義	
	10	チェックリスト再記入	INST	チェックリスト	①チェックリストの返却(事務局→インストラクター→受講生) ②事後欄を2枚記入し提出用を提出	チェックリスト返却→グループ別に
	10	アンケートの記入	INST		アンケートもこの時間で書く	
	25	チェックリストの解説			解説(インストラクター数が多いのでコメント時間を確保するためやや短くても良い)	
※適宜、休憩をいれる。				(網掛け部分がグループワークの時間帯です)		
県研修課程のカリキュラムとの読み替えについて						
「事例分析」演習は、 ○「障害特性の理解とアセスメントに関する演習 3時間」 ○「記録に基づく支援の評価に関する演習 0.5時間」 ○「環境調整による強度行動障害の支援に関する演習 3時間」 に該当する。						
「まとめ・チェックリストの再記入と解説」演習は、 ○「記録に基づく支援の評価に関する演習 1時間」 に該当する。						

2023 年度改 正						
	川崎 カリキ ュラム	時間	科目	内容項目	時間	
講義	『行動療法の理解する』～制度の成り立ちと支援の実際～	1.5	強化学習障害のある者の基本的理解に関する講義	・支援の基本的考え方 ・強化学習障害の状況 ・行動障害が起きる理由	1	
演習			強化学習障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	・行動障害と虐待防止 ・関係機関（関係機関）との連携の方法	0.5	
講義			強化学習障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	・障害特性に基づく支援 ・児童期からの介入における支援	1	
講義	福祉と医療の連携	1	危険対応と虐待防止に関する演習	・関係機関（関係機関）との連携の方法	1	
講義	『行動療法の基本』・『II』	2	強化学習障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	・障害特性に基づいた支援 ・児童期からの介入における支援	3	
講義			強化学習障害のある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習	・困っていることの本質 ・チームプレイの必要性 ・組織的なアプローチの重要性	1	
講義	チーム支援	2	強化学習障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	・チームプレイの必要性 ・組織的なアプローチの重要性	1	
演習	『行動療法の技術』I ～アセスメントの実際～		基本的な情報収集と記録等の強化学習障害のある者の基本的理解に関する講義	・行動を見る視点 ・障害特性の理解	1	
演習	『行動療法の技術』II ～サービスの改善を考える～	7	強化学習障害のある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習	・支援手帳に基づく支援の体験 ・特性の把握と適切な対応 ・強化学習障害の支援に必要な知識 ・具体的なアセスメントの方法 ・障害特性に基づくアセスメント	2	
演習			強化学習障害のある者のコミュニケーションの理解に関する演習	・困っていることの本質 ・チームプレイの必要性 ・組織的なアプローチの重要性	1	
演習			強化学習障害のある者のコミュニケーションの理解に関する演習	・困っていることの本質 ・チームプレイの必要性 ・組織的なアプローチの重要性	1	
演習	事例分析	6.5	強化学習障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	・障害特性に基づく支援 ・児童期からの介入における支援	3	
演習			強化学習障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	・障害特性に基づく支援 ・児童期からの介入における支援	3	
演習			強化学習障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	・障害特性に基づく支援 ・児童期からの介入における支援	3	
演習			強化学習障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	・障害特性に基づく支援 ・児童期からの介入における支援	3	
演習	まとめ・チェックリストの再記入と解説	1	記録に基づく支援の計画に関する演習	・記録の方法 ・記録の分析と支援手帳の修正	1.5	
講義	生活の組み立て（チーム支援）	0.5	強化学習障害と生活の組み立てに関する講義	・チームによる支援の実践	0.5	
講義	家族の思い	0.5	強化学習障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	・家族の気持ち	0.5	
		24			24	
	川崎市強化カリキュラム（2023 年～）	時間	科目	内容項目	時間	
講義	障害特性の理解	0.75	障害特性の理解	・川崎市強化カリキュラムとの連携の強化	0.75	
講義	氷山モデルの活用	1	氷山モデルの活用	・川崎市強化カリキュラムとの連携の強化	1	
		25.75			25.75	

当センターは24時間換気を実施しております

◆会場のご案内◆

総合研修センター 2階 研修室

〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1

川崎市複合福祉センターふくふく 2階

TEL : 044-223-6509 / FAX : 044-223-6598

JR「川崎駅」より 徒歩15分

JR・京急「八丁畷駅」より 徒歩8分



令和5年度 川崎市障害児・者行動援護従業者養成研修

受講推薦書

法人名：	
事業所の名称：	
代表者氏名：	印
事業所の主な事業	
事業所住所：〒	

令和5年度川崎市行動援護従業者養成研修の受講者として、次のものを推薦します。

【受講申込者一覧】

優先順位	受講者名
1	
2	
3	
4	

※事業所事務担当者：	電話：
決定通知等送付先：〒	

【送付先】 住所：〒210-0024 川崎市川崎区日進町 5-1 川崎市複合福祉センターふくふく 2 階
総合研修センター 「行動援護研修担当」

- ☐ 1. 受講希望者全員のデータ入力（1名1送信）

申込フォーム：<https://forms.gle/uuHNcqdikTAdAuKn6>

- ☐ 2. 受講推薦書に押印の上、郵送 締切日消印有効

※2点すべて整えて申込完了です。 申込〆切後2週間を目安に当落通知を郵送します

令和4年度川崎市障害児・者行動援護従業者養成研修 Q&A

強度行動障害支援者養成研修(基礎研修・実践研修)との関係について

問 1 行動援護従業者養成研修とはどのような関係か。

(答) 行動援護従業者養成研修の過程は、強度行動障害支援者養成研修の基礎研修及び実践研修と同一です。行動援護従業者養成研修を修了した方は、強度行動障害支援者養成研修の受講の必要はありません。

問 2 行動援護の従事要件になっている研修内容はなにか。

(答) 行動援護従業者養成研修修了もしくは強度行動障害支援者養成研修の基礎研修及び実践研修の修了者です。